

- 問1 1861年から始まった南北戦争において、リンカーン大統領が1863年に「奴隷解放宣言」を出し、同年のゲティスバーグでの演説で民主主義の原則を訴えた大きな理由として、適切な説明はどれですか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. アジアへの進出を目的として、アメリカ国内の軍勢力を一時的に縮小させるため | 2. イギリスやフランスなどのヨーロッパ諸国を、南部の軍事同盟として引き込むため | 3. 南部の独立を正式に承認し、北部の領土を縮小して戦争を早期に終結させるため | 4. 北部が掲げる「自由」や「民主主義」という大義名分を明確にし、国内外の支持を固めるため |
|---|--|---|---|
- 問2 徳川慶喜が、土佐藩などの勤めに従って大政奉還を行った最大の目的として、最も適切な背景の説明はどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 江戸幕府の仕組みをそのまま維持しながら、天皇の権威を借りて外国勢力を排除する攘夷を実行するため | 2. 武力による幕府打倒を目指す薩摩藩や長州藩に対して、全面的に降伏して政治から引退することを表明するため | 3. 土地や人民をすべて朝廷に返すことで、地方の有力大名が持つ特権をすべて廃止し、中央集権国家を完成させるため | 4. 政権を一度朝廷に返上した上で、徳川家を中心となる有力大名の合議制による新しい政治体制を築こうとしたため |
|--|---|---|--|
- 問3 独立後のアメリカ合衆国で制定された合衆国憲法において、権力の集中を防ぎ国民の自由を守るために採用された、国家権力を立法・行政・司法の三つに分ける仕組みを何と呼びますか。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|----------|---------|
| 1. 議院内閣制 | 2. 三権分立 | 3. 直接民主制 | 4. 社会主義 |
|----------|---------|----------|---------|
- 問4 1858年に江戸幕府がアメリカ合衆国との間で結んだ条約について説明した次の文章の空欄にあてはまる名称として、最も適切なものを一つ選びなさい。「ペリーの来航から数年後、幕府は大老の井伊直弼の判断により、天皇の許可を得ないままアメリカとの間に（ ）を締結した。この条約によって横浜や長崎などの港が新たに開港され、貿易が開始されるとともに、開港場には外国人が居住する居留地が設けられた。」 (2024年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 1. 日米和親条約 | 2. 日米修好通商条約 | 3. 日米安全保障条約 | 4. 日清修好条規 |
|-----------|-------------|-------------|-----------|
- 問5 産業革命の影響と、労働者の動きについて述べた次の文のうち、歴史的な事実として正しいものはどれですか。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. イギリスでは、労働環境の悪化に対抗するため労働組合が作られ、やがて選挙権の拡大を求める運動などにもつながった。 | 2. イタリアでは、産業革命の開始と同時に社会主義による計画経済が導入されたため、労働組合は組織されなかった。 | 3. 日本では、江戸時代の問屋制家内工業が発展する中で、工場労働者による大規模な労働組合が世界に先駆けて結成された。 | 4. イギリスの労働者は、機械の導入を歓迎して労働時間を自発的に延長し、輸出額の増加を全面的に支援した。 |
|--|---|--|--|
- 問6 1854年に江戸幕府がアメリカと日米和親条約を締結した際、燃料となる薪や水、食料などを供給するために開港が決まった港の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------------|----------|----------|
| 1. 横浜と神戸 | 2. 下田と函館（箱館） | 3. 浦賀と館山 | 4. 長崎と新潟 |
|----------|--------------|----------|----------|
- 問7 幕末の動乱期において、大きな政治運動となった「尊王攘夷（そののうじょうい）」の思想について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 天皇の権威を利用して外国人と協力関係を築き、幕府の体制を立て直そうとする考え方。 | 2. 幕府の権力を強めるために、外国の技術を積極的に導入して軍隊を近代化しようとする考え方。 | 3. 天皇を尊ぶ立場から、武力を用いても日本から外国人を排除しようとする考え方。 | 4. 朝廷と幕府が協力して、外国との不平等条約を平和的な交渉によって解消しようとする考え方。 |
|---|--|--|--|
- 問8 幕末の政治的推移において、1850年代の開港から1860年代の倒幕運動へとつながる因果関係について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 幕府が朝廷の許可なく開港や条約調印を進めたことに反対派が反発し、それに対する安政の大獄での弾圧が、有力藩による薩長同盟などの倒幕運動を加速させた。 | 2. 安政の大獄によって幕府の権威が回復したため、諸外国との開港が円滑に進み、最終的には薩摩藩と長州藩が幕府を支えるために薩長同盟を結成した。 | 3. 薩摩藩と長州藩が同盟を結んだことで幕府が外交権を失い、その結果として日米和親条約が締結され、混乱を鎮めるために安政の大獄が行われた。 | 4. 開港による経済の混乱を防ぐために薩摩藩と長州藩が幕府に安政の大獄を提案し、その後に両藩が主導権を握るために薩長同盟を解消させた。 |
|--|---|---|---|
- 問9 幕末の外交官アーネスト・サトウの活動と、当時の政治背景について述べた文として最も適切なものはどれですか。 (2024年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. アメリカ総領事として下田に着任し、徳川家茂に対して日米修好通商条約の調印を強く要求した。 | 2. 幕臣の勝海舟と協力し、イギリスの軍勢力を背景にして江戸城無血開城に向けた西郷隆盛との交渉を主導した。 | 3. オランダ商館の医師として来日し、徳川吉宗の命を受けて西洋の医学や植物学を日本人に伝授した。 | 4. イギリス外交官として徳川慶喜の通訳を務める一方で、各藩の有力者とも交流し、幕府権力の弱体化を本国に伝えた。 |
|---|---|--|--|
- 問10 1858年に日本とアメリカの間で結ばれた日米修好通商条約には、日本国内で罪を犯したアメリカ人をアメリカの領事が自国の法で裁くことを認め、さらに日本が輸入品に対して自由に関税をかける権利を認めないという内容が含まれていました。このような条約の内容を示す用語の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2018年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|
| 1. 領事裁判権の承認と、関税自主権の欠如 | 2. 裁判権の独立と、貿易の自由化 | 3. 領事裁判権の欠如と、関税自主権の承認 | 4. 司法権の確立と、保護貿易の推進 |
|-----------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|
- 問11 1853年にアメリカからペリーが来航した際、幕府に突きつけた主な要求の内容と、その後の日本の対応について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|--|
| 1. 江戸幕府を倒して新しい天皇中心の政府を作るよう、幕府に対して強く要求した。 | 2. キリスト教を日本全国で布教することを認めさせるため、武力による開国を求めた。 | 3. 捕鯨船などのための燃料や食料の補給を目的として、日本に開国を求めた。 | 4. 日本をアメリカの領土の一部とするため、不平等な割譲条約の締結を求めた。 |
|--|---|---------------------------------------|--|
- 問12 1867年に江戸幕府の第15代将軍である徳川慶喜が行った、政権を天皇に返上した出来事を何といいますか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------------|---------|---------|
| 1. 廃藩置県 | 2. 王政復古の号令令 | 3. 版籍奉還 | 4. 大政奉還 |
|---------|-------------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 北部が掲げる「自由」や「民主主義」という大義名分を明確にし、国内外の支持を固めるため	南北戦争の最中、リンカーン大統領は1863年に奴隷解放宣言を出すことで、戦争の目的を「合衆国の統一」に加えて「奴隷制の廃止と自由の拡大」であることを明確にしました。これにより、南部を支援しようとしていたイギリスなどの世論を北部寄りに変え、国内外で北部の正当性を主張する狙いがありました。
問2	答え 4 政権を一度朝廷に返上した上で、徳川家が中心となる有力大名の合議制による新しい政治体制を築こうとしたため	慶喜は、武力による討幕を計画していた薩摩・長州に対して、自ら政権を返上することで討伐の名目を奪おうとしました。政権返上後も、徳川家が広大な領地を維持したまま、有力大名による会議（諸侯会同）のリーダーとして実権を握り続けることを狙っていました。
問3	答え 2 三権分立	モンテスキューが『法の精神』で提唱した考え方に基づき、権力が一箇所に集中して独裁が行われるのを防ぐために導入されました。アメリカ合衆国は、この三権分立を厳格に取り入れた世界初の近代共和制国家となりました。大統領（行政）、連邦議会（立法）、裁判所（司法）がそれぞれ独立し、互いに抑制し合う仕組みになっています。
問4	答え 2 日米修好通商条約	1854年に結ばれた日米和親条約が薪水の補給や漂流民の保護を目的としていたのに対し、1858年のこの条約は本格的な貿易（通商）を開始することを目的としていました。この条約により横浜（神奈川）、長崎、新潟、兵庫（神戸）が順次開港され、特に横浜は貿易の拠点として急速に発展しました。1854年の条約と混同しやすいですが、貿易や開港場の増加というキーワードから判断します。
問5	答え 1 イギリスでは、労働環境の悪化に対抗するため労働組合が作られ、やがて選挙権の拡大を求める運動などにもつながった。	イギリスの労働運動は、単なる待遇改善にとどまらず、政治への参加（チャーティスト運動など）にも発展しました。なお、問屋制家内工業は産業革命以前の生産形態であり、労働組合とは異なります。また、イタリアの計画経済や機械の導入を無条件に歓迎したという記述も事実には反します。
問6	答え 2 下田と函館（箱館）	ペリーの来航を受けて結ばれた日米和親条約は、鎖国体制を終結させた条約です。この条約では、アメリカの船に薪水（燃料と水）や食料を補給することを目的として、静岡県伊豆半島に位置する下田と、北海道南部の函館（当時は箱館）の2港を開くことが決められました。選択肢にある横浜や新潟、神戸などは、その4年後に結ばれた日米修好通商条約によって開港が決められた場所です。
問7	答え 3 天皇を尊ぶ立場から、武力を用いてでも日本から外国人を排除しようとする考え方。	尊王攘夷とは、天皇を敬う「尊王」と、外来の勢力を排除し打ち払うという意味の「攘夷」が結びついた思想です。ペリー来航以降、幕府が独断で開国を進めたことへの反発や、貿易による経済混乱への不満から、下級武士を中心に激しい運動となりました。この運動は「外国人の排除」を目的としており、外国人に協力を求める性質のものではありませんでした。
問8	答え 1 幕府が朝廷の許可なく開港や条約調印を進めたことに反対派が反発し、それに対する安政の大獄での弾圧が、有力藩による薩長同盟などの倒幕運動を加速させた。	ペリー来航後の開港は、国内の「攘夷（外国を追い払う）」思想と結びつき、幕府の外交姿勢を批判する勢力を生みました。大老の井伊直弼が安政の大獄でこれらを押さえつけようとしたことは、かえって反幕府の機運を強める結果を招きました。その後、軍事力を持つ薩摩藩と長州藩が、土佐藩の坂本龍馬らの仲介で薩長同盟を結んだことで、幕府を倒す具体的な準備が整うことになりました。
問9	答え 4 イギリス外交官として徳川慶喜の通訳を務める一方で、各藩の有力者とも交流し、幕府権力の弱体化を本国に伝えた。	サトウは外交官として活動する中で、幕府だけでなく地方の有力諸藩（薩摩藩や長州藩など）とも深く交流しました。彼は日本の政治状況を冷静に分析し、当時の幕府が日本を統治する能力を失いつつあることや、諸藩による連合政権の必要性を指摘する論文「英国策論」を執筆しました。これが当時の志士たちに大きな影響を与え、イギリスが倒幕派に好意的な中立を保つ背景の一つとなりました。
問10	答え 1 領事裁判権の承認と、関税自主権の欠如	幕末に結ばれたこの条約は、日本にとって一方的に不利な「不平等条約」でした。外国人が日本で犯罪を犯しても日本の法律で裁けない状態を「領事裁判権」の承認（治外法権の認可）といい、自国で輸入商品の税率を自由に決められない状態を「関税自主権の欠如」といいます。これらの回復は明治時代の外交における最重要課題となりました。
問11	答え 3 捕鯨船などのための燃料や食料の補給を目的として、日本に開国を求めた。	当時のアメリカは太平洋での捕鯨や中国との貿易を活発化させており、中継地点となる日本で石炭（燃料）や水、食料を補給できる港を必要としていました。この要求を受け、翌1854年に日米和親条約が締結され、下田と函館の2港が開港されることとなりました。通商（貿易）の開始を主な目的とするハリスとの交渉は、さらにその後の出来事です。
問12	答え 4 大政奉還	薩摩藩や長州藩などの倒幕派が武力による打倒を目指して動くなか、徳川慶喜は自ら政権を朝廷へ返上することで、倒幕の名分を奪い、新政府においても徳川家が主導権を握り続けようと試みました。この出来事により、約260年続いた江戸幕府による武家政治は幕を閉じました。版籍奉還や廃藩置県は明治政府が成立した後の改革であり、混同しないよう注意が必要です。